



■特集

**その人がその人らしく
尊厳を保ち、
ご希望の人生となるよう
チームで全人的に
支援します。**



～その人の生活(人生)を
イメージして一緒に考え続ける～

インタビュー／作業療法士の仕事

作業療法士の役割とは



トピックス

**島田病院建替プロジェクト
「いよいよ、工事スタート」**

**島田病院
公開医療講座で整形外科を学ぼう!**

“Cafe” Infection Control

その人がその人らしく尊厳を保ち、ご希望の人生となるよう チームで全人的に支援します。

～その人の生活(人生)をイメージして一緒に考え続ける～

八尾はあとふる病院は、回復期リハビリテーション病棟(59床)・医療療養病棟(60床)の入院でのリハビリテーションに加え、訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション・外来など、必要な方に必要なリハビリテーションを提供できるよう努めています。

今号では、脳出血で倒れてしまい、回復期リハビリテーション病棟に入院された、ある患者さん(Nさん)の入院から退院後の生活へのリハビリを、ご本人のインタビューを交えてご紹介いたします。

回復期リハビリテーション病棟とは？

病気やけがなどで入院された方が、急性期病院での治療が終わって退院してもすぐ自宅に戻ることが難しい場合に、集中して計画的なリハビリテーションを実施する病棟です。患者さまがリハビリテーションを通して、新しい生活設計を行い、退院後の療養と社会生活が両立することをサポートします。

急性期病院での治療が一段落すれば、できるだけ早く当院でのリハビリテーションを適切に活用できるように密に連携を図り、患者さまの状況を伺いながら、当院の機能を十分に説明した上で、入院相談・入院調整を行っています。

適切な時期に入院できるよう、八尾徳洲会総合病院とは入院前にカンファレンス(前方カンファレンス)を行っています。急性期治療の段階から医師、看護師、理学療法士、医療相談員等が意見交換を行うことにより、当院のベッドの空き情報や急性期病院からの治療が継続して行うことができるなど、スムーズな連携に役立っています。



八尾徳洲会総合病院で開催される前方カンファレンス。

入院中

楽しい旅行のはずが…入院へ

平成25年11月、久しぶりに出かけた旅行の帰りに急に左半身が動かなくなり倒れ、そのまま救急病院に運ばれました。脳出血でした。3週間後、左半身に麻痺が残り、ご自身で動くことができない状態で八尾はあとふる病院の回復期リハビリテーション病棟に入院されました。

一日も早く家に帰りたい。
家族に迷惑はかけたくないですもん。

と意思が強いNさん

入院されるまでは、交通事故の後遺症で車いす生活をされている次男さんを支えながらの二人暮らしをされていました。Nさんが入院されてからは、長男さん夫婦と娘さんが次男さんのサポートをしてくれています。とても協力的なご家族がいらっしゃいますが、「家に帰るには自分の身の回りのことくらいはできないと!」という強い意志でリハビリに取り組みました。



入院時のNさんのFIM※は80/126、車いすに座るのも移動するのも介助が必要で、トイレに行くためには2人での介助が必要な状態でした。

理学療法士と作業療法士が役割分担し、理学療法士は座ること・立つことなどの基本的な動作の訓練、作業療法士は手の機能回復のための訓練をしました。作業療法では、日常生活動作が自立することを目指して、まずはトイレ動作から始めることとし、壁にもたれながら、バランスを崩さず右手でズボンを上げ下げする練習をおこないました。そして、服の着替えができるように、ベッドサイドで、麻痺が残る左側の袖を、肘を伸ばすようにして通す動作や、ズボンをはく時に左側にもたれながら右手でズボンを上げる動作が行えるように練習をしました。また、お風呂に入って、片手で体が洗えるように、柄が長く体を洗いやすいよう工夫された「洗体ブラシ」を使うようにしました。

※FIMとは、機能的自立度評価表(Functional Independence Measure)の略で、どれくらい他の人や道具に頼らないで、日常生活を行うことができるかを評価します。当院ではFIM報告書を定期的に作成し、患者さまご家族とお話し合いの時にお渡ししています。



入院中のリハビリで4点杖での歩行が可能になるまで回復したNさん。

息子のそばにいてやりたい
あたり前のことをしたいだけです。

と母は強しですね。Nさん

日常生活動作の練習を繰り返し行い、3ヶ月後のFIMは112/126にまで上がり、トイレや着替えなどがご自身でできるようになりました。

生来とても頑張り屋のNさんは、何とか息子の世話ができるように、手が動くようにしなければと焦っておられました。しかし手の麻痺は重度であり、諦めそうになるNさんに、作業療法士は「諦めるのはまだ早いし、もし手が思うように動かなかったとしても、息子さんのためにできることはたくさんあるはず」と励まし続けました。ご自宅に帰ってから、少しでも家事ができるようにと、洗濯物をたたむ練習や食器を洗う練習も行いました。



入院中の作業療法により、自宅で洗濯物を干すことができるようになりました。

スタッフの方々が、私のことを一生懸命
考えてくれているのが伝わってきたわ

とNさんのうれしい言葉。

入院中も自主トレーニングを欠かさず、退院できるまでに回復されたNさんに、リハビリを頑張れた理由をお伺いしたところいただいた言葉です。平成26年3月、自主トレのメニューをたくさん持って、ご自宅に退院されました。退院後は、介護サービスセンターはあとふるのケアマネジャーが引き続きリハビリを続けられるようケアプランを作成、通所リハビリテーションでの作業療法と訪問リハビリテーションでの理学療法を続けることになりました。



通所リハビリテーションの様子。

コレなら、息子もうまい! っていってくれますわ。

料理ができるまでになったNさん。

退院直後は、洗濯たたみ、食器洗い程度だった家事も、その後の通所リハビリや訪問リハビリでさらに回復され、洗濯はすべて、料理も簡単なものならできるようになりました。訪問リハビリは主に理学療法士が行っていましたが、肉や野菜が切りにくいと聞けば、作業療法士が「釘付まな板」を提案したり、ブラウスも着たいけれどボタンがかけにくいと聞けば、「ボタンエイド」を作成するなど、チームで環境を整えました。

左手の麻痺は残っており、洗濯ものを裏返したりするには苦労もされますが、次男さんが手伝ってくれるようになったそうです。そして、Nさんの作った料理と一緒に食べているよと笑顔で話されました。

Nさんがご自宅に退院できたのは、ご自身の強い意欲とご家族の協力があってのことです。私たちの役割は、早く退院できるように、そして退院後のその人の生活をイメージして一緒に考え、チームでサポートすることです。退院後のご自宅での様子は、ケアマネジャーや訪問リハビリから病棟スタッフへ伝えられ、入院中のケアに役立てています。

療法士に見守られ、息子さんのために焼きそばを作るNさん。



釘付まな板

「自助具」と言われるものですが、作業療法士が木のまな板に裏から釘を刺して、手作りしています。釘に食材を刺して固定することで、片手でも切ることができます。皮むきも出来るように、皮むき器と固定金具を取り付けたりなど、その人に合わせて作製します。



ボタンエイド

先端をボタン穴に差し込み、ボタンを引き出してボタンをかける自助具です。指が動きにくかったり、握力が弱い方が使用します。市販もされていますが、使いやすいように作業療法士が手作りもします。

第6回日本訪問リハビリテーション協会学術大会in大阪 平成27年5月30日(土)・31日(日) 高槻現代劇場にて開催!

2013年8月の「社会保障制度改革国民会議」の報告書では、社会保障の機能強化のため、患者の負担増と給付の重点化とともに、「高齢化の進展により、疾病構造の変化を通じ、必要とされる医療の内容は、『病院完結型』から、地域全体で治し、支える『地域完結型』に変わらざるを得ない」として、医療提供体制の改革の方向性が示されています。そこでは、医師主体の治療から多職種チームによるヘルスケアへの変革が主張され、QOLを重視したケアのあり方がうたわれています。医療と介護は一体として改革され、ご本人の尊厳や価値観を守り、住み慣れた地域で継続的かつ包括的なケアが提供できるよう体制の整備が計画されています。まさに大きな節目の時代と言えるでしょう。

しかしながら、現実はどうでしょう? 実践できているのは一定の地域に限られ、なかなか普遍的な広がりを持つには至ってはいません。優れた指導者と方針を理解し協力する施設や専門職、さらには行政のバックアップといった体制が整わなければ、有機的な連携による継続したケアの提供は難しく、何かの要因によりもう一歩が踏み出せないという状況といえます。

このもどかしい状況を進展させることができるのは、在宅での生活に喜ぶ方々の笑顔、また、逆に埋めることのできない障壁に涙した悔しさ、その双方からたっぷりエネルギーを得ている現場の力だと思っています。

訪問リハビリテーションはその代表的な現場です。訪問リハビリテーションに関わるみんなが、さまざまな活動を通して、医療と介護を、施設と在宅を、社会と個人をそれぞれ結びつけ、その人がその人らしく、慣れ親しんだ地域で人生を全うすることをサポートする体制を作る責任を担っているのです。

この大会のテーマ「地域完結型ケア体制での訪問リハビリテーションー生命・生活・人生の橋渡しー」はそんな思いから生まれました。さまざまな角度からの議論を通じて、みんなでこの変革の時代を主体的に乗り越える力や知恵を得たいと願っています。

大会長 島田 永和 医療法人永広会 理事長



詳しくは、大会ホームページ <http://www.houmonreha.org/osaka/greeting/index.html>

特集記事のNさんは、家に帰るだけでなく「息子のために母として」という気持ちが強くありました。そこで、その気持ちを支え、家事の練習を中心にサポートした作業療法士を紹介します。

作業療法士の役割とは…。 作業療法士 副主任／市村 公

作業療法の「作業」とは、その人が大切にしている活動のすべてを指します。食事、睡眠などの日常生活で欠かせない活動や、仕事をする、家族のために食事を作るなどの役割を果たすこと、家族や友人と一緒に時間を過ごすこと、趣味活動など、「作業」には様々あり、どの「作業」を大切に捉えているかは人によって異なります。

病気や事故などで「作業」が困難となった方に、できるだけその方の価値観に寄り添い、大切な作業が再びできるようになるために、単に動作の練習だけではなく、実現できる方法を一緒に考えたり、環境を整えたりすることが、私たち作業療法士の役割です。



回復期リハビリテーション病棟担当 作業療法士／中島 妙子

Nさんの退院後も、訪問リハビリ担当者から、自分で洗濯や料理をされたりできるようになったと聞いたり、通所リハビリ担当者からは、トレーニングとして始められたぬり絵がどんどん上達されて、作品のように仕上がっていることなどを聞くことも嬉しくなります。退院後もその方の生活が拡大する可能性があることを考えてアプローチすることの大切さを再確認しました。

はあとふるグループでは、入院・外来・訪問・通所のリハビリスタッフはすべて同じリハビリテーション課に所属して

いるので、相談や連携がスムーズにできています。また、ひとりのセラピストが入院や外来そして在宅のリハビリを経験することができるので、機能的な訓練や動作の練習だけでなく、その方の生活全般を見通したりリハビリができるのではないかと思います。

回復期病棟では、急に身体が動かなくなり、「これからどうしたらよいか」と不安を抱える方がたくさんいらっしゃいます。療法士として、不安を抱える方に対し心理面でもサポートすることはとても大切だと思っています。



通所リハビリテーションでの再会 (右:Nさん、左:中島作業療法士)



Nさんのぬりえ作品集

島田病院建替プロジェクト「いよいよ、工事スタート」

平成21年4月、島田永和理事長が建替を表明してから6年近くの年月が経過しました。その間、他施設見学などの情報収集を行い、島田病院がしたいこと、やるべきことが実現できる「かたち」を探し続けました。震災や不景気、東京オリンピック決定などが建築業界にも大きく影響し、プランの根本的な見直しを余儀なくされたこともありました。最終的には、隣接地に、45床の増床分を含めた88床の入院と外来で構成する病院棟と疾病予防施設である「ヴィゴラス」を含むエントランス棟の2棟構成で計画を固め、ゆう設計事務所と共に各部門の職員を巻き込んで、詳細を詰めてきました。

そして、この2月6日に地鎮祭を執り行うことができました。いよいよ3年近くに及ぶ工事が開始されます。入院棟は来年5月には開設の計画ですが、エントランス棟の工事も含めると長期にわたり、ご迷惑をおかけすることになります。リニューアルされた新病院では、これまで以上に、地域の方々や島田病院を必要とされる方々に、必要なケアを提供できるよう準備を進めてまいりますので、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。また、工事の進捗などについてはホームページで確認できるよう計画中です。



地鎮祭



建替後の島田病院・悠々亭の全体図



建替後の島田病院正面玄関

島田病院 公開医療講座で整形外科を学ぼう!

島田病院では、整形外科専門病院として、地域の皆様の健康づくりのお手伝いをさせていただくために公開医療講座を開催しています。地域の皆様にもわかりやすく、整形外科専門医と理学療法士からのお話とリハビリの実践を行っています。この活動は年1回行っており、平成26年度は下表のプログラムで「堺市立 東文化会館 フラットホール」にて開催しました。

堺市での開催は初めてでしたが、初日は157名、2日目は204名、3日目は、171名の多くの方々に参加いただき、医療講座への関心の高さを感じました。また、前年度の公開講座に参加いただいた方から、「理学療法士からのリハビリを実践する際

に、後ろの方に座ると見えにくい」という要望があったので、今回から実際の動きをスクリーンに映し出して、後ろの方にも見えやすくするなどの工夫を取り入れました。

当院は、リハビリテーション機能の特化した整形外科専門病院として、地域の皆様への情報提供を今後も継続していきます。

次の開催予定は、現時点では未定ですが、随時ホームページやチラシなどで公開医療講座開催の案内をしていく予定ですので、ぜひご参加ください。

日 時	テーマ	講 師
1月22日(木) 14:00～16:00 開場13:30	腰痛・座骨・神経痛の治療 慢性化しないための生活と身体作り	整形外科 科長 金田 国一 理学療法士 山本 淳
1月29日(木) 14:00～16:00 開場13:30	肩・腰・ひざの痛みはどこから? 肩甲骨の動きからみた五十肩の対策	理事長 島田 永和 理学療法士 出水 精次
2月5日(木) 14:00～16:00 開場13:30	変形性関節症の治療 変形とうまくつきあうための対策	整形外科 医長 佐竹 信爾 理学療法士 吉川 昌利



スクリーンを活用したリハビリの実践



講座終了後の個別相談会の様子

平成27年
6月10日(水)
開催予定

八尾はあとふる病院 公開リハビリテーション講座のご案内

◆第3回 健康寿命を延ばしましょう
～動いて治そう!関節痛～/～今日からできるヒザ・腰の体操～
平成27年2月18日(水)開催 参加者187名

第4回 健康寿命を延ばしましょう。

講演:島田 永和/実技:未定

※詳細につきましては、ホームページ、チラシなどでご案内させていただきます。

●開催場所
八尾市文化会館 プリズムホール 5Fレセプションホール

●お問合せ
Tel 072(999)6381 八尾はあとふる病院 公開講座係まで

介護老人保健施設 悠々亭 公開講座のご案内

平成27年
6月4日(木)
開催予定

第2回 老いを楽しむ塾～エンジョイ・エイジング～

—— 動いてナンボ! ——

講演:島田 永和

—— 認知症の予防について ——

実技:理学療法士・トレーナー

※詳細につきましては、ホームページ、チラシ、羽曳野市広報・藤井寺市広報等にてご案内させていただきます。

●開催場所 / はびきのコロセアム サブアリーナ
●お問合せ
Tel 072-953-1002 介護老人保健施設 悠々亭 公開講座係まで

はあとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head

心
Warm Heart

技術
Beautiful Hands

で支援します

はあとふるグループの基本方針

1. 「確かな知識と技術」を追求します
2. 「心に届く」を追求します
3. 「安全」を追求します
4. 「信頼でつながるチーム」を追求します



感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部 感染・安全管理担当
感染管理認定看護師 森下 幸子

感染症法「1類感染症」のエボラ出血熱とは？

エボラ出血熱とは、エボラウイルスによる熱性の病気です。潜伏期間は2～21日(平均約1週間)と長く、発症は突発的であるといわれます。主な症状は、発熱・頭痛・筋肉痛・胸痛、腹痛、無力症が多いようですが、インフルエンザと似ていますね。ただ、2～3日で急に悪化し、死亡例では約1週間程度で死に至ることが多いのですが、出血は、主症状ではないことも多いのです。問題は、致死率が50%～90%ととても高いため、恐れられています。

感染経路は、血液、体液、排泄物等との接触感染(時には飛沫感染)で、空気感染は否定的です。2月12日WHO(世界保健機構)によりますと、累積患者は2万人を超え、累積死亡者数は9194人と報告されています。もちろん、国内では発生していませんので、西アフリカのギニア・リベリア・シエラレオネの発生数です。

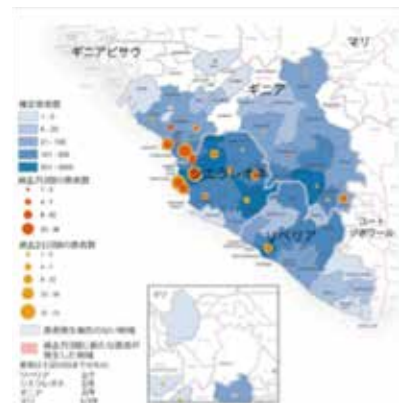
最近、報道されないのでもう忘れつつあるかも知れませんが、実は世界的に見ると収まっています※。むしろ、国内への持ち込みリスクは持続しています。

※ 3月21日WHOはリベリアの患者数増加が収まりつつあり、今年半ばまでに感染を止めることが可能とした。

私たちが行う事は海外旅行から戻って来た時に少しでも体調が悪ければ、「検疫」へ報告することです。そして、ご自宅に戻ってから発熱や下痢などあれば「保健所」へ相談をしましょう。

もうひとつ、大切な事があります。

海外旅行へ最近行かれ、発熱などある患者さまは、当院を受診される際に、「アフリカへ行ってないから関係ない」と思い込まずに、「海外へ行きました」と最初に看護師へお知らせ下さい。よろしくお願いします。



厚生労働省検疫所 FORTH より



はあとふる グループ

●医療法人(財団)永広会

島田病院 072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス 072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの 072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる 072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

●社会福祉法人 はあとふる

ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10